

住民とコミュニティワーカーによる 地域福祉実践

「名古屋市シルバーパワーを活用した地域力再生事業等評価委員会報告書から」

平成二十年四月からモデル実施をしている「名古屋市シルバーパワーを活用した地域力再生事業」(以下、「シルバーパワー事業」という)は、多様化し、制度では解決できないニーズを解決するため、また団塊の世代をはじめとするシニア世代の皆さんが地域の活動に参加することを目的としています。

その一年半の取り組みを評価した「住民とコミュニティワーカーによる地域福祉実践」(平成二十一年十月発行)から抜粋し、これからの地域福祉実践を考えると、みたいと思います。

■**シルバーパワー事業とは?**
シルバーパワー事業は、これまでの地域福祉実践に「仕組み」を取り入れたものです。その

「仕組み」とは、①ボランティアポイント制度の導入(住民の地域活動の参加促進)、②個別支援事業の実施(地域の困りごとへの対応)、③シルバーパワー活用連絡会議・協働ネットワーク研修(学区内の事業決定のための協議・学習の場)、④コミュニティワーカー、地域福祉活動推進員の配置(事業実施のためのコーディネーター)、⑤市社協による支援(モデル学区への支援)となります【左頁イメージ図のとおり】。

■**新たな担い手の発掘**
ボランティアポイント制度の導入は、ボランティア活動を始める動機づけの一つとして有効性が認められました。また、モデル学区内で一体感をもたらした

ているなど、実施前に想定した以上の効果が生まれているようです。

■地域の困りごとの解決

モデル学区では、シルバーパワー事業の実施をきっかけに個別支援事業を行っています。しかし、地域性などもあり、住民の皆さん自身が当事者意識を持ち、住民の皆さん自身がその解決に向かっていくには時間が必要な場合もあります。また、解決に向けた行動に移るには、丁寧なニーズ把握、協議の場づくり、ボランティア・NPO団体との協働も必要な視点です。

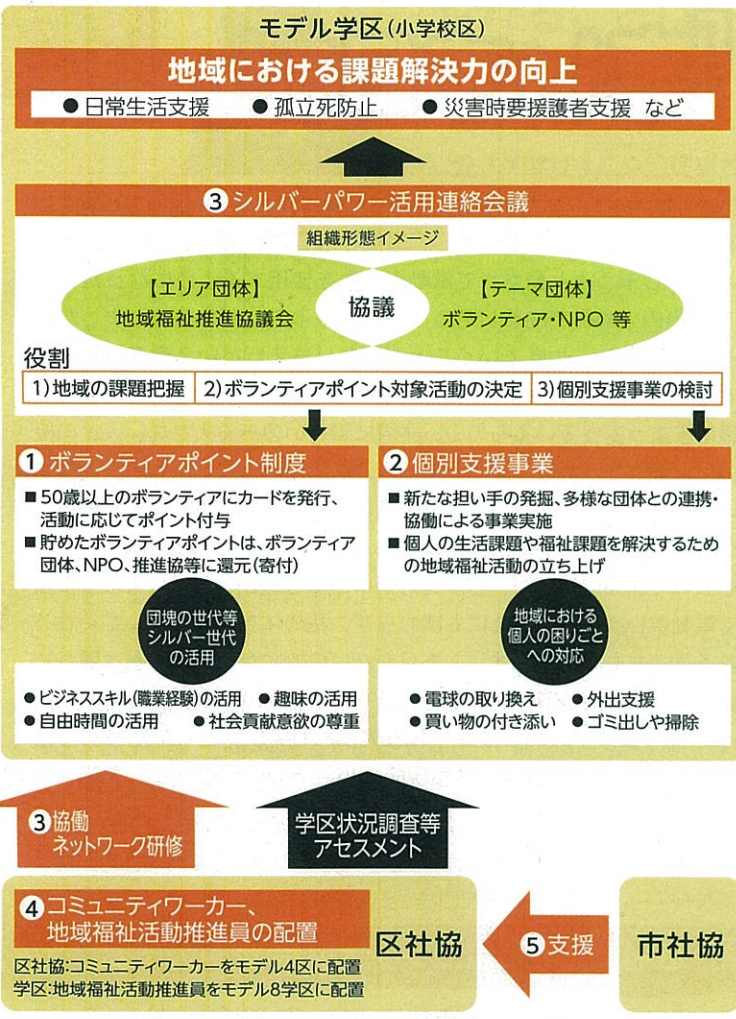
■**コミュニティワーカーの存在**
住民の皆さん自身が主体性を持った活動をするには、住民の

■**これからの地域福祉実践**
シルバーパワー事業の評価を通じて確認できた①新たな担い手の発掘、②地域の困りごとの解決、③協議・協働の場づくり

は、これからの地域福祉実践において必要な視点です。そして、これらの取り組みを進めていくには、専門性を持つ「コミュニティワーカー」の関わり「の必要

性を再認識したと言えます。エリア団体(地域福祉推進協議会)との長年の信頼関係とボランティア・NPO団体をはじめとするテーマ団体との関わりの中

シルバーパワーを活用した地域力再生事業 ~イメージ図~



皆さんとともに汗をかき、支援をし続けるコミュニティワーカーの存在が重要です。日本福祉大学の小松理佐子教授によると、「コミュニティワーカーの専門性は、地域への介入技術と地域のアセスメント力、計画力にある。同時に今後は、コミュニティワーカー自身のスキルアップ、地域をバックアップする具体的な支援策の確立が必要である。」と分析しています。

なごや発 住民とコミュニティワーカー による地域福祉実践



【発行】平成21年10月
【価格】1,000円
【お申込】地域福祉推進部
TEL(052)911-3193

(この報告書では、コミュニティワーカー(社協職員)のグループインタビューや学区への支援手法なども掲載しています。)

で、コミュニティワーカーが力を発揮することが社協の存在意義だと言えます。また、市社協では、各地域で活動するコミュニティワーカーの体制を確保し、コミュニティワーカーを支援するスーパービジョンの体制を一層充実させる必要があります。また、コミュニティワーカーの専門性を一層確立することが重要であると考えています。

シルバーパワー事業は、非常に効果があるため、全市拡大を目指すべきであると考えます。また、目指していく地域福祉実践は、「住民主体」の原則のもと、住民の皆さんとともに歩むことで地域に根付いたものとなります。継続的な積み上げが、住民の皆さんの信頼関係を生み、誰もが安心して暮らすことのできるまちにつながるものと確信しています。